



みずいろ

滋賀県 P T A 連絡協議会 広報紙



発行者

滋賀県PTA連絡協議会
滋賀県PTA安全会
会長 松浦洋子
制作 広報委員会
印刷 竹田謄写堂

第
58
回

滋賀県PTA大会

IN さざなみホール



子どもの考えに刺激うける

澄み切った青空のもと、第58回滋賀県PTA大会がさざなみホール（野洲市）で開催された。

今年は、子どもたちと一緒にスマホ・インターネットについて考える会を県P大会を含めて5回開催。小中高生の子どもたちが、大人たちに聞いてもらいたいことについて話合った。スマホは決して悪いことばかりではない。自分たちで使い方を考えた。

松浦会長は挨拶のなかで「子どもが自転車に乗れるようになる前に、三輪車、次に大人が後ろを持ち補助輪が取れるまで見守り、何度もこけながら、けがをしながら、自転車の乗り方を学んでいく。スマホ・ケータイの使い方もこれと同じではないか。」と話した。子どもたちの声を受け、これからどうするか、それが私たち大人に与えられた課題である。

スマホサミットでは、コーディネーターの竹内和雄先生（兵庫県立大学准教授）と子どもたちとのやり取りがとても印象的だった。



小中高生のアンケート結果をもとに、竹内先生が子どもたちに質問する。ユーモアを交えた問いかけに、子どもたちの口から次々と本音が飛び出した。先生は子どもたちの本音に対して驚き、共感し、再び質問され、さらに話の内容が膨らんでいった。スマホは「友達」「体の

一部」だという子どもたち。生活になくてはならない、必要なものとなっているのだ。

竹内先生は「本音を聞いて印象深かったことは、ゲームにのめり込むのは、人間関係が難しいから。他に達成感や充実感がないからではないか。でもほめられたいし、親に叱ってほしい。ゲームに代わる達成感、充実感があることを見つけあげないと、取り上げるだけではこれからの時代やっていけないのではないか。」と述べられた。

子どもとの会話で「うん」「たぶん」と一言で終わることはないだろうか。返事の後に、子どもが続けて話してくれるように、親も意識して会話するとそこから何かヒントが見つかるかも知れない。スマホ・インターネットの世界以外での子どもの居場所作りがこれから重要となってくる。

最後に、滋賀の大人代表として永原小学校PTA会長・松井庄栄さんが、感想を発表してくださいました。

「今日、子どもたちが思っていることを知れてよかった。社会人になっても、同じようなことが続いているというのがよく理解できた。若い子どもたちとの付き合い方を考えさせられる時間になった。スマホと人間は、時代の流れと共に歩んで上手に使うべきだと思う。」

会場は、頑張ってくれた子どもたちに向けて、大きな拍手が送られた。



ゆけゆけ！ スマホ子ども委員会



■平成27年度スマホ子ども委員会は、アンケート調査の結果、自分の経験や考え、話し合いによる問題への気づき等を基に「自分たちに何ができるか」を考えた。■You tubeで動画を流す、LINE用スタンプ制作など多彩な意見が飛び出し、取り組みのために各方面から多くの協力を得た。4回を予定していた委員会も撮影のために5回に増やした。■動画班、LINEスタンプ班、ナレーション班などグループに分かれ話し合った。スタンプには利用者として



のアイデアが生かされた。小学生による動画「ながらスマホはやめましょう」は照れ臭そうに出演する姿が初々しい。高校生の日常を題材にした中高生の動画「そんなつもりじゃ…」は、出演・台本・撮影を子どもたちが手掛けた力作。台本の読み合わせを通じて役作り、セリフの理由などに向き合った。■情報を活用したり危険を察知したりする能力は、自然に身につくものではないが、学校の勉強のように練習の機会やテストもない。今回のような取り組みは一つの例として重要だ。■スマホを手放せない子どもたちがいるとしたら、大人が彼らの本音を知り、理解する事が大切だ。問題があるからといって、それらを遠ざけても解決はしない。処方箋には「一緒に考える」ことも加えたい。



子どもたちにかかわって ～大学生の声～

子どもたちの可能性を引き出してくれた「スマホ子ども委員会」ですが、縁の下で力持ちである大学生の方々の存在は欠かすことができません。笑顔の下に見え隠れする緊張感、そのさじ加減が決して簡単なものではないということを示しています。これはまた、彼ら自身にとっても貴重な学習の機会だったのでしょう。教員をめざす大学生の声をご紹介します。

今年度のスマホ子ども委員会に参加させていただき、改めて子どもたちは無限の可能性を秘めているということが分かりました。小学生、中学生、高校生が集まり和気あいあいとしている姿、また一人ひとりが成長する姿を間近で見ることができて本当に嬉しかったです。来年度も是非参加させていただきたいと思っています。ありがとうございました。

(兵庫県立大学3年 渡邊彩夏)

今回の滋賀スマホサミットで、長期間、小中高の子どもたちと関わり、1年という短い時間の中でも子どもたちはたくさんの成長をしていると感じた。最初は話すのが得意ではなかった子も、前で話すようになっていたり、色んな意見をもって行動する意欲性など、大学生の僕らも見習わなければならない点がたくさんあった。また、次回もぜひ参加したいと思った。

(兵庫県立大学3年 月岡暉史)

子どもたちの柔軟な発想、想像を超える成長ぶりに毎回驚かされました。自分の意見をたくさんの大人に認めてもらったこと、友達の頑張りや成長を近くで見られたことが子どもたちの原動力になっていたのかなと思います。このような取り組みがこの先も続いていくことを願っています。ありがとうございました。

(神戸大学大学院2年 岩谷江里子)

情報化社会に生きる私たちにとって、最も身近なスマホとのつきあい方を知ることは、大切なことです。子どもスマホ委員会では、あふれる情報に呑み込まれるのではなく、それらを上手に活用するために「情報リテラシー」について考えました。子どもたち一人ひとりが真剣に考える姿は大変頼もしく、未来に明るい展望を見出すことができました。

(滋賀大学4年 柴原明日香)

24時間、お子さまの「万が一」に安心でお応えします!!

PTAが窓口の団体制度だから保険料が
約55%割安!!

年度の途中でもご加入いただけます。
プランは4タイプ(年間保険料 6,000～12,000円)
学校内外問わず、夏休み期間の外出先やレジャー中の事故も補償されます。



傷害補償



急増中!!

自転車事故も補償



賠償責任補償



特定感染症補償



育英費用補償

資料のご請求・お問い合わせは、
滋賀県PTA連絡協議会「園児・児童・生徒24時間総合保障制度」係

☎ 0120-577-415 (平日9:30～17:00)

保護者の声

スマホ子ども委員会はどうでしたか？

～おさんを参加させた保護者(福永さん)にうかがいました～

- 参加を決められたのはどうしてですか？
「学校から案内が配られて、考えさせてもいいかなと思ったので」
- おさんは、ここでの交流をどのように受け止めていましたか？
「中学生や高校生、また異なる学校の人とかかわれることに楽しさを感じているようです」
- ここでの学習を保護者としてどう受け止められましたか？
「子どもがスマホを手にする時、与える側はその責任の重さをどれ程理解しているのでしょうか？子どもたちの悩みや考えに接するなか、この現状をまず保護者である私たち大人が認識し、学ばねばならないことを強く感じました。」

滋賀県 スマホ宣言 2015



- 1 「さわりすぎ！」怒るその顔 鬼のよう
気づけば日付が 変わってる。
- 2 文字よりも 声で気持ちを伝えよう。
- 3 気を付けて 相手は実はオッサンだ。

関西スマホサミット ④大阪

平成27年11月15日に大阪で関西スマホサミットが開催された。兵庫県立大学准教授 竹内和雄氏、SNS問題に対する取組で世界的に有名なアリゾナ大学教授 シェリー・パウマン氏を迎え、青少年のスマホやインターネット等の利用実態や危険性について、子どもたちとともに考え、学んだ。

実践報告として、猪名川町スイングバイ、寝屋川市中学生サミット、和歌山県立和歌山ろう学校、神戸市内中学校の取り組みが発表された。

子どもたちは真剣にこの問題に向き合っていた。今自分たちが何をすべきかまた、大人がどのように関わっていくべきかなど、会場を巻き込んだ熱い討論がかわされた。



育てたいのは
子どもたちの未来。

「高校生国際交流プログラム」協賛
「いじめ防止標語コンテスト」協賛
「エコキャップ推進協会」への支援
「がん対策推進企業アクション」への参加
「新日本フィルハーモニー交響楽団」への支援
(ほか)

AIU損害保険株式会社

神戸支店
〒650-0044 神戸市中央区東川崎町1-3-3
問合せ：078-360-2401 午前9時～午後5時(土・日・祝日・年末年始を除く)

平成27年度

受賞に輝くかたがた

(敬称略)

◎優良PTA文部科学大臣表彰
甲賀市立水口小学校 P T A

◎日本PTA全国協議会会長表彰
<団体の部>

高島市立今津北小学校 P T A

<個人の部>

大津市 目片 信悟
近江八幡市 永峰 美佳
草津市 森野 朋宏
栗東市 林 史代

◎近畿ブロックPTA協議会会長表彰
<団体の部>

彦根市 P T A 連絡協議会
甲賀市立油日小学校 P T A

<個人の部>

彦根市 高原 裕子
長浜市 鈴木 厚志
守山市 服部 正子
甲賀市 西尾 典子
高島市 李本 正昭
日野町 辻 武司

◎滋賀県PTA連絡協議会会長表彰
<団体の部>

高島市立今津北小学校 P T A

<個人の部>

大津市 目片 信悟
大津市 早川 恵子
大津市 亀田 栄樹
大津市 石津 禎明
彦根市 高原 裕子
守山市 前田 幸広
高島市 菖蒲 洋介



親育ち支援事業

この事業の目的は、県Pの具体目標を具現化するとともに、各単Pの研修活動を支援するためのもので、27年度は、約60校園PTAに補助金を給付しました。補助金額は1万円以内ですが、有意義に活用されています。詳しくは、各単Pに送付されている要項をご覧ください。



地球の未来にできること。
マングローブ「海の森」づくりは、
その答えのひとつです。

東京海上日動は、1999年度からNGOをパートナーに、地球温暖化の抑制に役立つマングローブの植林をはじめました。それから10年、「海の森」は5,000haを超える面積にひろがりました。マングローブ「海の森」づくりは、東京海上日動が地球の未来に向けた保険。100年間植林を継続することを目指し、取り組んでまいります。
*「マングローブ植林行動計画」「財団法人オイスカ」(1999年度～)「国際マングローブ生態系協会」(2009年度～)

東京海上日動火災保険株式会社

東京都千代田区丸の内1-2-1 〒100-8050

☎0120-868-100 午前9時～午後8時(平日、土日祝とも) <http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/>



あるスタッフのつがやき PTA活動に思うこと PTA活動をやってみて

皆さんは、PTA活動にどんなイメージをお持ちですか。そして、実際にかかわった方は、どんな感想を抱かれていますか。「PTA活動に思うこと」では、滋賀県PTA連絡協議会に関わる皆さんの思いや考えをお伝えする場として、みずいろ第95号からスタートしました。今回は、やってみて良かった派の意見を中心にご紹介いたします。まだまだ始まったばかりの取り組みですが、PTA活動を通じて感じたことをひとつひとつ大切に考える場にしていきたいと思えます。

まず、始めてみよう

PTA活動を一言で言うなら「先義後利」につきると思います。この意味は、人が守るべき道徳を一番に考えて、利益を二の次に考えるという意味ですが、私たちの活動において考えてみると、利益を求めて仕事をするより、例えば利益がなくても、ボランティア等の小さなことをしていても、後から利益がついてくるという意味になるのではないのでしょうか。

PTA活動は、保護者にできる最大のボランティアです。親は自分の子どもを育てるので精一杯ですし、それで当然です。ただ学校は子どもが育つ大切な場所です。学校のために出来る事が自分の子、ひいては学校に通う子ども全体をよくすることにつながるのではないのでしょうか。

そして何より、子どもたちから笑顔という最高のプレゼントがもらえる、とても有益な活動だと思います。

(Y・T)

わたしがPTA活動で感じたこと

仕事で忙しい日々の僕が小学校のPTA会長を安易に引き受けてしまった。小学校には入学式しかいない。分からないことだらけで不安しかありませんでした。「出来るのだろうか？」しかし、そんな不安はすぐに無くなったのです。1人で頑張らないといけないものでなく、たくさんの保護者の方や先生方が助けてくださり僕でも出来るのだと。確かに、しんどいなあと思う時もありますが、PTA活動をしたからこそ出会えた人や経験がたくさんあります。世界が広がり学校や先生方、地域の方が身近になり子ども達のことも気軽に相談できるようになりました。出来ることからほんの少しでもいいのだと思います。「未来の子ども達の為に、楽しく何か出来れば！」と想い関わる場がPTA活動かと僕は思います。僕らが子どもだった頃は親がしてくれていたんでしょね、PTAって。今出来ることを子どもに還せたら。

少しは親として成長できたかなあ…。

(たのうえのお宮)

安全安心な学校づくりを願って

沢山の仲間たちと出会うことができました。辛い時、皆さんと一緒に活動していると力が湧いてきて今日まで来られた気がします。

私の娘は、小学校1年生の時、小学校のグラウンドで重い鉄棒が倒れてきて頭に当たり大けがをしました。あれから18年が経ちました。未だに後遺障害の痛みが消えません。それでも、周りに心配をかけまいと笑顔を見せてくれます。

娘のような学校事故に巻き込まれる子どもたちが出ませんように、安全に安心して登校できる学校であってほしいと願ってやみません。

そんな願いを原動力に、誰かの何かのお役に立てればとの思いでやってきました。

親の思いが生かされる学校。子どもの笑顔が絶えない学校。そんな学校が一校でも増えていくことを願っています。

(K・H)

本当はラッキーだった、PTAだからこそ出会えた方達

学校のPTA役員になり、今年は輪番で市のPTA役員が回ってきました。また偶然にも県のPTAの話もきて、最初は戸惑いました。けれど、市内や県内のPTA役員さん方と“子どもたちの笑顔と幸せな未来のために”と会議や講演会等に向かう中で、いろんな職業や立場の方々の体験もお聞き出来、とても勉強になりました。そして県のPTAに参加したお蔭で三日月知事が家庭で実行されていることなどが直接聞けて、本当にラッキーだったと思います。

PTAは自分の学校だけの活動と思っていましたが、「幼小中の子育て真最中のわたし達がまず育っていこう」とピリギャルのママに講演頂きその通りだと思いました。今年は近畿ブロック研究大会が滋賀県で行われ、書道家の武田双雲さんに講演頂いたのですが、参加された方々が喜んでくださり、笑顔で帰られる姿を見て改めて、心から役員になって良かったなあ、こちらまで嬉しい気持ちになりました。でも、それは、家族の協力があればこそと思うのです。ありがとう。

(K・W)

うちの子も、よその子も

うちの小学校は三日月知事の母校ですが、約30年前にPTAを解散した経験をもっています。先進的な考えでなされたことのように、大人の連携のない学校は難しかったようで、間もなくPTAは復活したそうです。今は子育て・孫育てに熱心な地域に支えられる温かい学校です。

さて、昨今の子どもにまつわる悲しい事件には、大人のつながりで防げたかもと思うものもあります。滋賀県は都市部ほど深刻でないと思いたいけれど「子どもの貧困」「夜の子どものぼっちご飯」などと聞くと、遠い地のことでも「何かしなきゃ」と思います。物品等のリユースとか、「何かあったらうちにおいで」といいあえるご近所との人間関係とか、PTAの取り組みや声掛けで助かることもある様です。頼ったり頼られたりの豊かな人間関係の中で子どもの社会性は育まれると聞きます。「うちの子もよその子も」の精神で子どもたちを守り育てる、それがPTAの存在意義ですよな。

(まり)

出会いの魔法

PTA役員＝「面倒くさい！」のイメージが強い中、近年、その一方で「一緒にやってみない?」「あなたがいたらできそうなきがする!」という声も多い。PTAは「もっと○○だったら、子どもたちの学校生活が楽しくなるよね」「もっと○○したら、パパやママの子育てに役立つのに」…そんな想いや願いの声をあげられる組織。そして、その声に対して、保護者と先生が子どもを真ん中にして、「一緒に考えること」「一緒に実現すること」で自分たち自身が学び成長できる組織。子どものために…が出发点だったとしても気が付いたら自分が元気になっていたりする。私にとってPTAの活動は、まさにそんな魔法のような時間。仲間との出会い、子どもたちの笑顔、そして地域とのつながり、その一つ一つがお金では買えない大切なモノ。そんな私の嬉しそうな顔を見て、子どもたちは呆れているが、それがまた、この子たちの心に何かを響かせているような気がする。

(I・O)

編集後記

みずいろ編集スタッフはPTAの寄り合い所帯です。皆、ほめられて伸びるタイプですので、ご意見や励ましのお言葉などをくださると作り手も元気が出ます。現在、HPのリニューアルに取り組んでいますのでそちらもお楽しみに。(ま)